

新版教科書でこんな授業をしてみたい

新しい学習指導を考える会

書いて 知らせよう

二上「かんさつ名人になろう」

1 この教材でこの力をつけさせる
「かんさつ名人になろう」は、身近なものを観察し、相手に伝わるように書き表す教材である。

この教材で主に身につけさせたい力は何か。それは、感覚を表す表現のしかたを使って書き表す力である。

感覚を表す表現のしかたには、例えば、次のようなものがある。

- ・色（赤い）、形（丸い）、のよう（な形）、大きさ（小豆くらい）、数（三つ）、動き（くねくね、のよう（な動き））
 - ・音（パキッ、ガサガサ、ドン）
 - ・におい（おいしそうな、のびやかなにおい）
 - ・触った感じ（硬い、軟らかい、温かい、冷たい、ぬるぬる）
 - ・味（あまい、すっぱい、のよう（な味））
- これらの表現のしかたは、書き表すときにだけ使われるものではない。一つ一つが身近なものを観察するときの観点となる。これらを意識させて、色はどうか、音はどうか、触った感じはどうかと、対象をじ

つくり観察させることが、書き表す力を身につけさせることにつながる。

2 力をつけさせるためにこう指導する
感覚を表す表現を使って書き表す力を身につけさせるために、大きく次の二段階で指導する。

対象を観察させ、絵をかかせる。

感覚を表す表現のしかたを意識させ、それを観点として対象をじっくり観察させる。

そして、観察したことをもとに絵をかかせる。絵をかくことで、子どもは対象の細かい点にまで目を向ける。

その後、色、音、触った感じなどを短い言葉で書き込ませる。

絵を見せながら観察したことを話させ、工夫点や改善点を話し合わせる。

三、四人の小集団を組ませ、かいた絵を見せながら、観察したことを話させる。ここで、子どもは、絵にかいたことを周りの友達に伝えようとす。友達に伝えるためには、対象の様子を詳しく話さなければならぬ。そのために、絵に書き込んだ言葉

だけでなく、**比喩**や**擬声語**・**擬態語**なども使って話すようになる。

その後、工夫点や改善点を話し合わせる。友達に認められた工夫点は、書くときに生かすようにさせる。また、指摘された改善点は、具体的な言葉で絵に書き加えさせ、文を書くときの参考にさせる。

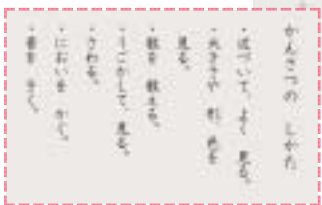
話し合いで出された工夫点や改善点をもとに、観察したことを書かせる。

観察したことが相手に伝わるようにまとめさせる。子どもは、かいた絵と話し合いで出された意見をもとに、感覚を表す表現を使って書き表す。

その後、互いに読ませ、よいところを見つけさせる。友達に認められることで、子どもは、表現のしかたを観点として観察するよさを実感する。そして、次も、感覚を表す表現のしかたを使って書きたいという意欲をもつ。



17年度版「二上」「かんさつ名人になろう」p.28-29



17年度版「二上」「かんさつ名人になろう」p.30より